

大安寺報



名句・名言に学ぶ

チャールズ・チャップリン (映画監督)
下を向いていたら、虹を見つけることはできないよ。

今年の夏は、全国各地が局地的な豪雨に見舞われ、特に広島では多くの方が亡くなる惨事となりました。今もなお、自宅に帰ることのできない方が数多くおられることに心が痛みます。その一方で、豪雨の後の虹の様子をインターネットなどで発信する方が多かつたことも今年の夏の特徴です。真つ黒な雨雲が去った後に、空に忽然と現れる虹に、束の間ほっとした方も多いのではないのでしょうか。

冒頭のことばは、イギリスに生まれ、その卓越したユーモアセンスと演出により、時に世界中の人々を笑いに包み、時に感動の涙に暮れさせたチャールズ・チャップリンのものであります。下を向き、うつむいてばかりいると、空の上に現れる虹を見つめることができず、つまり、悲しみに暮れたり、落ち込んでばかりいると、成功したり、幸せになつたりできないよという、チャップリンがその人生を通じて経験してきた数多くの苦難を踏まえ、紡ぎ出したことばです。

禅に「身心一如」ということばがあり



ます。「身体と心は一つ(一体)である」という意味です。そのことばにもとづき、坐禅においては「調身」(身体を調え)、「調息」(息を調え)を経て「調心」(心が調う)と段階的に心を調べていきます。心を変え、その心に心をもつてするのではなく、まずは身体を調えるというアプローチです。私たちは、悲しいことや苦難に出逢うと、身体に力が入らず、ともするとうつむき、下を向いてしまいます。そんな時はチャップリンのことばにならない、上を向き、空を見上げてみませんか?その人がおかれた状況によって、時間はかかるかもしれませんが。けれど、心の中の雲が少しづつ晴れ、いづれきつとその人なりの「虹」を見つめることができるはずですよ。

「お彼岸」は、仏さま方、亡き方々がいらっしゃる「彼岸」おさとのりの世界にあそこが、思いを馳せ、身と心を調べて過ごす期間です。お仏壇の前、墓前で静かに坐り、お線香を手向け、亡き方々を思うことを通して、彼岸にあこがれる…。そんなひとときを、この秋彼岸は共に過ごしてみませんか?

合掌

仏事 Q&A 第二十三回

Q. お線香は何本立てれば良いのでしょうか?

A. お仏壇でもお墓でも、お一人一本で結構です。(宗派やお寺によって異なる場合があります) お線香は、「香食」ともいわれ、仏さまへお供えする食事です。東でお供えする方がいますが、線香立てが汚れ、お線香の香りを損なうものですので遠慮ください。

Q. 洗米(あられ)の意味は?

A. 洗米は水の子の代わりといわれています。水の子は、洗った米や大根と細かく刻んだ野菜を混ぜたものですが、洗米ではその野菜をお茶の葉で代替しています。「水の子」は、沢山のご先祖さまや精霊全てに食べ物が行き渡るようにお供えするもの。供える際は、半紙などに容器から移してお供えください。

■大安寺ホームページ

<http://www.daijanji.jp>

■大安寺携帯サイト

<http://keitai.daijanji.jp>



@daijanji2010

※行事予定などをお知らせします。



facebook

<http://www.facebook.com/daijanji>

大安寺の宗旨：曹洞宗 本山：福井県永平寺・神奈川県總持寺 高祖：道元禪師 太祖：瑩山禪師
ご本尊：釈迦牟尼仏 本尊唱名：南無釈迦牟尼仏 (なむしゃかむにぶつ)